



# Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

## 評価報告書

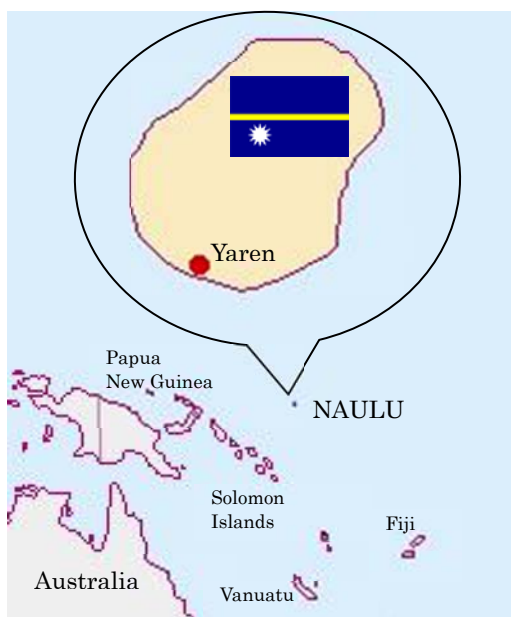
### ナウル共和国

－ 2024 年度 地域巡回・拠点機能回復等支援事業 －  
(終了時評価－2025 年 4 月)

#### プロジェクトの概要

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 国名                      | ナウル共和国  |
| プロジェクト名                 | 2024 年度 FDAPIN VII プロジェクト<br>(地域巡回・拠点機能回復等推進事業)                                     |
| 実施期間                    | 2024 年 7 月 22 日 (覚書署名) ～2025 年 3 月 31 日   |
| 覚書署名省庁名<br>及び<br>事業実施機関 | 覚書署名省庁：漁業海洋資源局 (NFMRA : Nauru Fisheries Marine Resources Authority)<br>実施機関：漁業海洋資源局 |

#### プロジェクト実施の経緯と背景



ナウル共和国 (以下「ナウル」という。) 政府は、2005 年に長期戦略である Nauru National Sustainable Development Strategy (NSDS) 2005-2025 を打ち出した。この中の水産分野の長期目標として「健全に機能する水産業」が掲げられている。また Fisheries Act 1997 により、ナウル漁業水域におけるすべての魚の利用、管理、開発、保存及び保護は NFMRA の責任であるとしている。

NFMRA では各種の漁業振興策を実施しているが、ナウルの水産関連施設には、故障や老朽化等のため本来の機能を発揮することができない施設があることから、漁業活動に支障をきたしている。

このため、ナウル政府は、公益財団法人海外漁業協力財団 (以下「財団」という。) に対し、漁業普及、

機能強化、水産関連施設等の修理・修復及び現地技術者への技術移転についての要請を行った。

財団は我が国とナウルとの漁業関係の重要性を踏まえ、同国政府の漁業振興策を支援するため、本プロジェクトを実施した。

### 目標・成果・活動内容等

|                 |   |
|-----------------|---|
| <p>上位目標</p>     | <p>修理・修復対象施設周辺地域の漁業の生産性が向上し、小規模漁業が発展する。</p>   |
| <p>プロジェクト目標</p> | <p>水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。<br/>漁法や加工法に係る技術が向上する。</p>   |
| <p>成 果</p>      | <p>① ワークショップ機器の修理・修復及び技術指導<br/>経年劣化した非常用発電機の修理により、停電時でも製氷機やスリップウェイウインチを稼働させることができるようになり、カウンターパートにより発電機の運転操作・定期点検が可能となる。また、経年劣化した燃料運搬トレーラーのタンクの修理により、NFMRA 所属の多目的船に燃料を安全に補給できるようになる。</p> <p>② ソデイカ漁業の漁場等の調査及び漁具・漁法の技術指導<br/>NFMRA が新しい漁業資源として開発を進めているソデイカの漁場等の調査方法を習得したカウンターパートにより、今後、同調査が実施可能となる。</p> <p>③ NFMRA 多目的船(NF7、NF8 及び NF9)の船体修理、改良及び技術指導<br/>NF7 及び NF8 の船尾を改良することで、現地で入手できる 60 馬力船外機が利用可能となり、維持管理が容易となる。NF9 は船首船底部の損傷を修理することで、航海可能となる。また、カウンターパートの船体の修理及び FRP 加工材料取扱いに関する技術が向上する。</p>             |
| <p>活 動</p>      | <p>①ワークショップ機器の修理・修復及び技術指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発電機の交換</li> <li>・ 燃料運搬用トレーラーのタンクの交換</li> <li>・ 上記に必要な技術指導</li> </ul> <p>②ソデイカ漁業の漁場等の調査及び漁具・漁法の技術指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁場調査（漁期と考えられる 8～9 月に水深や潮流等を調査）</li> <li>・ 漁具の仕立て及び漁法の技術指導</li> <li>・ 試食会を通じたソデイカ国内市場の開発</li> </ul> <p>③NFMRA 多目的船（NF7、NF8 及び NF9）の船体修理、改良及び技術指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NF7 及び NF8 の船外機取り付け箇所の改良加工</li> <li>・ NF9 船首船底部の修復及び補強</li> <li>・ 上記作業に必要な技術指導</li> </ul> |

|     |  |
|-----|--|
| 投 入 | <p><b>財団側</b></p> <p>1) 専門家<br/>計画<br/>第1回 巡回指導<br/>漁具漁法専門家<br/>2024年8月下旬～9月中旬（約25日間）<br/>第2回 巡回指導<br/>チームリーダー/船舶機関・冷凍機器専門家<br/>2025年2月中旬～3月初旬（約20日間）</p> <p>実績<br/>第1回巡回指導<br/>漁具漁法専門家<br/>2024年8月27日～2024年9月15日（20日間）<br/>第2回巡回指導<br/>チームリーダー/漁船機関専門家<br/>2025年1月25日～2025年2月13日（20日間）</p> <p>延日数<br/>計画 45人日<br/>実績 40人日（計画対比：88.9%）</p> <p>2) 主な資機材<br/>37kVA 発電機 1台、燃料運搬トレーラーのタンク 1台、ソデイカ流し立縄漁具の材料一式及びFRP加工材料一式</p> <p><b>相手国側</b></p> <p>1) 主なカウンターパート<br/>Senior Coastal Fisheries Officer, NFMRA 1名<br/>Technical Service officer, NFMRA 1名<br/>Coastal Fisheries Officer, NFMRA 1名</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等<br/>ソデイカ漁場調査に使用した船舶及びクルーの提供<br/>ワークショップ、事務室及びNFMRA車両の無償提供</p> |
|-----|--|

## 評 価 事 項

### ◆ 妥 当 性

#### 1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、ナウル政府の長期開発計画において海洋・漁業分野の重要戦略として位置づけられている「食料安全保障及び代替生計手段を広げる持続的な海洋資源の活用並びに商用漁業の開発の核となる民間漁業活動の促進」に合致した事業内容であり、妥当と判断される。

## 2. 協力ニーズ（対象国、対象地域）との整合性

ナウル政府から水産関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術移転を要請されており、事前調査において NFMRA ワークショップの機能強化、ソデイカ漁の試験操業並びに船舶の修理・修復及び技術指導に対する協力ニーズが高いことが確認されている。

NFMRA は、船外機及びボートの購入資金を漁民に援助し漁業振興を進めており、ソデイカ漁の技術指導はこの漁業振興に貢献するものである。

## 3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はない。

## 4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

NFMRA ワークショップの機器及び多目的船の修理・修復はこれらの施設・機器の機能強化を図り、その運営・管理に対する助言を行うものであり、周辺水域の水産資源に対する負荷を大きくするなどの直接の影響を及ぼすものではない。

ソデイカ漁の技術指導では、将来的には、沖合漁業が活発になることが予想されるが、ソデイカは現状では未利用資源であり、資源に影響を及ぼすほどの漁獲量になるには相当の期間を要すると考えられる。また、沖合資源の利用は、漁獲圧の高いリーフ魚等資源への圧力を下げる効果が見込まれる。

## 5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

## ◆ 効 率 性

### 1. 事業費及び実施期間

事業費は、若干予算額を超過した。実施期間は計画より短期間となり、プロジェクト活動項目を全て実施したことから、効率的であった。

### 2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

プロジェクト活動はすべて完了し、投入された専門家及び資機材は、それぞれ期待された機能及び能力を発揮した。

### 3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

専門家は、これまでの技術指導の経験からカウンターパートの技術水準を把握しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、移転技術はカウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

特になし。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

## ◆ 有効性

### 1. プロジェクト目標の達成度

#### ①プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する

ワークショップ及び多目的船の機能が回復し、カウンターパートの知識及び技術レベルが向上したこと、及び、カウンターパートがソデイカ漁の漁場等の調査方法を習得し、今後ソデイカ漁開発に必要な情報を収集することができるようになったことから、プロジェクトの目標は達成された。

#### ②その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

### 2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

#### ① NFMRA ワorkshop機器の修理・修復及び技術指導

期待された成果：発電機の運転操作及びメンテナンスに関する知識を習得する。

2019年に供与した燃料運搬トレーラーのタンクは発錆のため穿孔の危険性があり、防錆効果が高いステンレス製の燃料タンクに交換したことから、安全な燃料補給が可能となった。

2013年に設置され経年劣化で不稼働となっていた非常用発電機を、37kVA 発電機に新替えたことにより、停電時でも製氷機やスリップウェイウインチの稼働が可能となった。カウンターパートは発電機の運転操作・定期点検方法を習得した。

#### ②ソデイカ漁業の漁場及び漁期の調査及び漁法、漁具の技術指導

期待された成果：ソデイカ漁の漁具仕立て及び操業方法を習得する。

ソデイカ流し立縄漁業に使用する漁具の仕立て及び操業方法を指導した上でソデイカ漁場調査を実施した。漁場調査は島西側海域で4回、島東側海域で2回実施し、両漁場データを得ることができ、また計3杯のソデイカを漁獲した。カウンターパートはソデイカ漁場調査を通じて漁具仕立て、操業、漁獲・生物学的データ収集、船上での鮮度保持等

を習得した。

漁獲したソデイカを用い、国内市場開発のためのソデイカ料理レシピの紹介及び大臣等を招いた試食会を実施し、認知度の向上を図った。

### ③ NFMRA 多目的船 3 隻 (NF7、NF8 及び NF9) の船体修理、改良及び技術指導

期待された成果：FRP による修理技術が向上する。

NF7 及び NF8 の船外機取付け部（トップレール及びトランサム）を、現行の 50 馬力船外機仕様から改良し、現地で入手できる 60 馬力船外機が利用できるようにした。

NF9 は船首船底部の損傷のため不稼働であった。損傷箇所の成形(復元)、FRP の積層、ゲルコート塗布及び岩等との衝突時の損害を軽減するステンレスプレートの取付けにより、損傷箇所は修理・強化された。今回の修理により、船首部分の耐衝撃性が向上し、より安全な運航が可能となった。

カウンターパートには、船外機据え付け時の位置決めの方法及び FRP による船体加工方法を指導したことから、FRP の修理技術が向上し、FRP 船活用の促進が期待される。

## ◆ インパクト

### 1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

対象機械の修理・修復により、その機能が回復または安定的な稼働が確保され、NFMRA の使命遂行及び漁業者の安全操業に貢献した。ソデイカ漁では、NFMRA がソデイカ漁の開発を進めるために必要な漁場等の調査に貢献した。これらにより、上位目標である修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産量の増加に寄与することが見込まれる。

### 2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、ワークショップの機能が強化され、カウンターパートの技術力が向上したことで NFMRA のプロジェクトがより効率的に実施され、漁業振興計画が推進されることになる。

また、ソデイカ漁の漁場等の調査結果は、将来の沖合漁業開発策定の資料となり、沿岸漁業開発に貢献するものである。

これらにより、対象地域の経済に対する直接的・間接的な効果の発現が見込まれる。

### 3. その他（ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等）

特になし。

## ◆ 持続性

### 1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは NFMRA の職員で、プロジェクト終了後も引き続きワークショップ及び多目的船の管理を担当する予定である。ナウルにおいてワークショップ及び多目的船の果たす役割は大きく、NFMRA は適宜関連施設の点検整備・修理を行っており、今後も有効活用される見込みである。

### 2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の修理・修復・機能強化がなされ、漁法や加工法に係る技術が向上したことにより、安定的かつ継続的な NFMRA の活動を可能にする環境が整備された。また、ナウル政府は当該施設の継続的運営及び漁法や加工法に係る技術の向上が同国の沿岸漁業振興に不可欠であることを認識しており、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込みである。

### 3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上